

## 文化芸術をお届けします 宇土市民会館 館長 本田恵介

今年度は早々に電気料金値上げが話題に上っていますし、大ホールトイレの洋式化工事などによる約3ヶ月の大ホール貸出制限により、使用料収入の減少が避けられない厳しい経営環境です。

とはいえ、文化芸術の灯を絶やさないためにも、国や公的機関の支援を得ながら、将来につながる事業をコツコツと進めてまいります。

特に力を入れるのが、演劇的手法を使ったワークショップ、リージョナルシアター事業とクラシック音楽を地域に派遣する公共ホール音楽活性化（おんかつ）事業です。

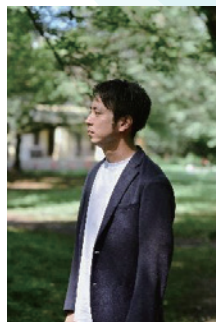
リージョナルシアター事業では、市内の中学生を対象に、全国で活動する劇作家・演出家を招きコミュニケーション力、表現力の育成を図ります。おんかつ事業では、市のまちづくり推進課とも連携して市内各所でアウトリーチ（出前）事業に取り組みます。

多様性を育む文化芸術をととして、若い世代の育成や市民のみなさんが身近に豊かさを感じられる地域になるよう努めてまいります。



昨年度のアウトリーチ事業（箏・ダンス）

### 今年度のリージョナルシアター事業 指導者 田上さん



田上 豊さん

〈プロフィール〉

劇作家／演出家／田上パル主宰。

1983年生まれ熊本県出身。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。専門は現代劇。移りゆく時代の中で揺らぐ人間やその集団を描き出すのを得意とする。劇団外でも公共劇場プロデュース公演やダンスカンパニーとの合作、国際共同事業など様々な活動を展開。近年は全国各地の小学生から高校生までを対象にした作品創作を精力的に行い、地域性を生かした演出法に定評がある。創作型、体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。

宇土市民会館アウトリーチ実施実績		
令和4年度	実施回数	ジャンル
鶴城中学校	5	太鼓
鶴城中学校特別支援学級	3	ダンス
花園小学校	8	合唱・ダンス・太鼓
網津小学校	2	太鼓
令和5年度	実施回数	
鶴城中学校	5	太鼓
鶴城中学校特別支援学級	4	太鼓
住吉中学校	2	箏
宇土東小学校	11	合唱・ダンス・箏・太鼓
花園小学校	3	合唱
網津小学校	2	太鼓
網田小学校	2	ダンス

## 50周年記念誌を発刊

NPO法人宇土の文化を考える市民の会では、昨年、宇土市民会館の開館50年を記念して「宇土市民会館50年のあゆみ」（編集：高木館長（当時）・非売品）を発刊しました。

国立図書館はじめ、全国の県立図書館、熊本県内の市町村図書館、宇土市内公共施設などに発送しており、宇土市民会館2階ロビーにも常設しています。宇土市文化課のご協力により貴重な写真を多数掲載していますので、どうぞ手に取ってください。



NPO法人 宇土の文化を考える市民の会 宇土市民会館ホームページ <http://www.utobunka.jp>  
 事務局 〒869-0433 宇土市新小路町123 宇土市民会館内 TEL 0964-22-0188 FAX 0964-22-0189

■年会費納入のお願い 2024年度の年会費納入ありがとうございます。  
 未納の方は、郵便局で振込まれるか、市民会館窓口でお支払い下さい。よろしくお願いたします。 \*火曜日休館



宇土市民会館HP

# 文化通信

No.49 2024.6.20 発行

NPO法人  
宇土の文化を考える市民の会

### 新理事長に長光 智法さんが就任しました。



長光理事長

今年の3月に前理事長の田代重臣様が逝去され、そのあとを引き継ぐこととなりました。宇土市の文化振興にご尽力くださったことに、深く感謝をさせていただくとともに、その意思を受け継ぐ責任の重さを肌身に感じています。宇土市民会館は令和4年に開館50周年を迎え、宇土の文化を発信する役割を果たしてまいりました。しかし、建物の老朽化や時代の変化で、さまざまな問題を抱えています。今年度から本田恵介新館長を迎えて、共に市民会館と宇土の文化の発展のためにお手伝いさせて頂きたいと思っています。さて、そろそろ梅雨のシーズンとなり、田植えの準備が盛んになってきました。世の中は目まぐるしく動いていますが、季節は初夏へと歩んでいます。私が大好きな詩人の一人に谷川俊太郎さんという方がおられます。その作品の中に「急ぐ」という詩があります。

こんなに急いでいいのだろうか 田植えする人々の上を 時速2百キロで通りすぎ  
 私には彼らの手が見えない 心を思いやる暇がない この速度は早すぎて間が抜けている  
 苦しみも怒りも不公平も絶望も すべて流れてゆく風景 こんなに急いでいいのだろうか  
 私の体は速達小包 私の心は消印された切手 しかもなお間にあわない  
 急いでも 急いでも間にあわない

私たちは、効率的に生きてゆくことが素晴らしいことだと思いがちですが、逆に急げば急ぐほど景色が見えなくなってしまいます。この「急ぐ」という詩のように、人を思いやることも、美しいものを見て感動する心も、置き去りにして先を急いでいるような気がするのです。老若男女「忙しい」という言葉を合言葉のように使っていますが、心を亡くし（心を見失い）心が滅びている状態が忙しいということではないでしょうか？いつもさっと通り過ぎる道を、ゆっくり歩いてみるとまた違った景色が見えてきます。科学の発達も文化の一面かもしれませんが、道端の小さな命に目を向けることも大切なことではないでしょうか。

## 総会報告



太田教育長



西山県議



田口議長

5月25日（土）NPO法人宇土の文化を考える市民の会通常総会が大会議室で開催されました。

審議に先立ち、長光新理事長の挨拶があり、太田耕幸教育長（宇土市長代理も兼ねる）、西山宗孝県議会議員からご祝辞を頂きました。

出席 22名 委任状出席 133名 合計 155名で総会が成立、田上千景理事の司会により議長に田口剛さん、書記に石井政宏理事、議事録署名人に中村照子理事と中村英子さんが選ばれ、2023年度事業・決算と2024年度事業予定・予算について審議されました。（詳細は別紙参照）



総会風景

終了後は、森尚子さんをゲストに「第1回本田館長対談」が行われ、森さんがピアニストの中でも珍しい「コレペティトゥーア」\*を目指した理由や、ウィーンでの生活など興味深いお話を聞くことが出来ました。6月29日のサロンコンサートもどうぞお楽しみに！参加される方は電話でご予約をお願いします。（TEL.0964-22-0188）



本田館長と森尚子さん

\*「コレペティトゥーア」は、歌劇場などでオペラ歌手やバレエダンサーにピアノを弾きながら音楽稽古をつけるコーチを言う。日本では「コレペティートル」と呼称、表記されることも多い。